

教師自身が努力し、さまざまな価値観に触れる必要がある

8月号の特集「多様性の中で主体性を育む」というテーマ設定は、適切だと思った。生徒にさまざまな価値観の中で考えさせるためには、まず教師がさまざまな価値観に触れなければならぬ。果たして、現場の教師がどれくらい多様な価値観に触れようとしているだろうか。与えられた研修だけではなく、自ら探して研修に参加しているか。教師の仲間だけでなく、職業や年齢が違う人たちとどれだけ話をしているか。生徒に成長を望むならば、教師も成長する努力をしなければならぬと思う。自戒を込めて特集を読んだ。

〔岡山県立烏城高校・杉山義則〕

若者を変えていく教育が試みられていることに感動

8月号の特集を読み、「右へ倣え」で目立たないことが半ば本能的な処世術になっている昨今、多様な価値観との出会いと、その中で自己肯定と他者肯定の同時定着が図られる取り組みが、さまざまな分野で必要とされていることに共感した。実際に若者を変えていこうとする教育が試みられていることにも感動したし、高校時代のディベートの授業、ボランティア活動を通して、そのような体験をした2人の大学生のレポートも興味深かった。北川達夫先生が紹介されていた、フィンランドとスウェーデンの事例も大いに考えさせられた。

〔奈良県・私立奈良育英中学校・久保貴范〕

Reader's VIEW

Volume 4

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

すぐには結び付かなかった多様性と主体性

8月号の特集では、言わんとしていたことがなかなか伝わってこなかった。おそらく、私の持つ「主体的」の言葉の印象が、今回の特集のものとは結び付かなかったためだろう。例えば、北川達夫先生は主体的であることを、「自分とは違う異質な他者の存在を前提として、自分はどう考え、……」と説明されていた。私の考えは、「今、自分が何をすべきか判断し、必要に応じて行動に移すこと」である。ここでは、異質な他者のみを前提としてはいけない。多様性と主体性がすぐには結び付けられなかったが、何度か読み返し、少しずつ理解している。

〔宮城県多賀城高校／私立常盤木学園高校・高谷将宏〕

「小さな変革」「生徒を信じ任せる」などの姿勢に共感

8月号「指導変革の軌跡」を読み、埼玉県立川口北高校の「小さな変革の積み重ね」という点に共感した。人は劇的な変革を求めますが、それはなかなか長続きしない。そういう点が良い点かと思う。三重県立朝明高校の実践では「失敗しても生徒を信じ、任せる」姿勢に共感した。

〔長野県長野西高校・佐藤洋一〕

教師川柳

虫の音に頭を癒やす受験生

兵庫県・とんちんかん

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

◎「VIEW21」は絶対的な答えを出す媒体ではない。教育をつくるのは現場の教師であり児童・生徒。そうした現場が更に躍動するような記事をつくり、提案するのが「VIEW21」の役割ではないか。特集の制作過程で、ある先生にいただいた言葉です。その学校、先生方が「how」を見いだすこと、その過程に価値があることを、学校事例・対談取材を通して学びました。「提案を多くの先生に理解・納得してもらい、実践していく人を増やしてほしい」。これは別の先生からいただいた言葉です。躍動につながる表現、編集が出来るのか――。問い続けていきたいと思えます。(青木)

VIEW21 10月号 vol.4

2013年10月10日発行

発行人 岡田晴奈
編集人 谷山和成
発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンタコ
執筆協力 中丸満、二宮良太
撮影協力 荒川潤、松原誠、ヤマグチイッキ
イラスト協力 カモ
情報編集室
〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390

©Benesse Corporation 2013

VIEW21

2013
December
12月
Volume 5

次号は
12月6日発行(予定)

「VIEW21」高校版は
年6回の発行です